

2020年9月17日(木)

HTB ノンフィクション「おっばい2つとってみた～46歳両側乳がん～」

2020年日本民間放送連盟賞 テレビ報道番組優秀賞を受賞

HTB 北海道テレビが2020年5月9日に制作・放送したHTB ノンフィクション「おっばい2つとってみた～46歳両側乳がん～」が、2020年日本民間放送連盟賞番組部門テレビ報道番組優秀賞を受賞しました。同番組は優秀賞のうち最優秀賞に次ぐ作品に選出され、テレビ部門全体のグランプリ・準グランプリの候補となっていて、11月10日に開催される表彰式で結果が発表されます。

HTB が日本民間放送連盟賞を受賞するのは、開局50周年記念ドラマとして制作した「チャンネルはそのまま！」の2019年日本民間放送連盟賞グランプリ、同番組部門テレビドラマ番組最優秀賞に次いで2年連続の受賞となります。また、テレビ報道番組としては初めての優秀賞受賞となります。

審査会では「当事者にしか分からない心の動きと家族や社会と向き合う困難に表現の広がりがあり、ジャーナリストとしての責任の果たし方として評価を得た」と高い講評を受けました。

同番組は、HTB 報道部のニュースデスクを担当する阿久津友紀ディレクターが同時両側性乳がん罹患、「誰かの役に立てるかもしれない」との思いから患者としての自らにカメラを向け、がんの告知の瞬間や治療方法を巡る迷いや苦悩を描いたドキュメンタリーです。手術室にもカメラを入れ、術後のリハビリやその後の思いも丹念に映像に記録しました。ナレーションも自ら務め、放送後大きな反響をいただきました。

今回の受賞について阿久津ディレクターは、「様々なご縁で出会った患者のみなさんから託された言葉が支えとなりました。がん患者が生きやすい世の中になることを願い、これからもピンクのリボンの端と端を結んでいきたいと思います」とコメントしています。

阿久津ディレクターは、一人の乳がん患者を通してピンクリボン運動を長期にわたって取材したHTB 生命の輝きスペシャル「ピンクリボンつながる…～乳がんを生きて～」(2009年12月23日放送、第51回科学技術映像祭 自然・くらし部門優秀賞受賞)、またいじめや不登校など解決策が見えない中、いのちの大切さを広める誕生学の現場を取材したHTB ノンフィクション「ありがとう いのち～みんな きみが大事～」(2013年5月5日放送、平成25年日本民間放送連盟賞特別表彰部門 青少年向け番組最優秀賞受賞)と一貫して乳がん予防やピンクリボン運動の啓発、いのちをテーマに幅広く取材、番組制作、公演活動を続けています。

このリリースに関するお問い合わせ

HTB 編成局編成部 山崎

011-205-7666

メール: yuyamazaki@htb.co.jp